

# 沖縄八重山文化研究会会報

第 215 号

発行 沖縄・八重山文化研究会  
事務局 沖縄県立芸術大学付属  
研究所 波照間永吉研究室  
那覇市首里金城町三六  
〇九八八八二五〇四三

## 白保竿根田原人骨の語るもの

藤田祐樹・片桐千亜紀

第二一五回沖縄・八重山文化研究会(会長三木健)は、二〇一〇年九月十九日、県立芸術大学附属研究所内で開催され、藤田祐樹氏(沖縄県立博物館・美術館主任)、片桐千亜紀氏(沖縄県立埋蔵文化財センター主任)が「白保竿根田原人骨の語るもの」と題して、二万年前の沖縄全体の概要や、竿根田原の発掘調査について具体的に語った。



藤田氏

片桐氏

新石垣空港建設予定地の白保竿根田原洞穴から発見された人骨は、骨から抽出したコラーゲンの年代測定によって、約二万年前、約一万八千年前、約一万五千年前のものが含まれているとわかりました。これまで、八重山で最も古い文化は、約三五〇〇年前の下田原式土器の時代であり、それ以前には八重山にヒトはいなかったと考えられていました。しかし今回の発見によって、少なくとも約二万年前には八重山に人がいたことが明らかになったのです。約二万年前〜一万五千年前は、どのような時代だったのでしょうか。縄文時代(沖縄では貝塚時代ともいう)が始まるより前の時代で、世界的には旧石器時代です。しかし、沖縄県内からは確実な旧石器が発見されていないため、当時の石器文化や人々の生活は謎に包まれています。旧石器が

ぶのはおかしいという意見もあるため、沖縄の古い人骨のことを「更新世人骨」ということもあります。  
更新世とは、動物化石の変化や過去の気候変動の証拠などから定義された地質時代区分で、約二六〇万年前から約一万二千年前までの期間を意味します。この期間は、ホモ属(原人、旧人、新人を含むヒトの仲間)の誕生した時代であり、氷期と間氷期を繰り返す「氷河時代」であり、絶滅動物の時代です。更新世のアジアにはマンモスやサーベルタイガーなどの大型哺乳類が息しており、本州ではナウマンゾウやヘラジカを追って旧石器時代人が渡来しました。琉球列島にも、約三万〜二万年前ごろまで、リュウキュウジカやリュウキュウムカシキョンなどのシカ類が生息していたことがわかっており、石垣島の石城山や轟川流域などでリュウキュウジカ化石が発見されています。約二万年前は、これらの動物が絶滅するころ(あるいは絶滅した後)です。氷河期の最終氷期と比べて、今よりも寒くなっていた時代で、海面が一〇〇

二〇〇mほど低下して、いくつかの島々（例えば石垣島と西表島）は陸続きになっていたと考えられています。

沖縄県内からは、こうした時代の人骨がこれまでにも発見されています。港川人（八重瀬町、一万八千年前）、山下町第一洞穴人（那覇市、三万二千年前）、ピンザアブ人（宮古島市、二万六千年前）、下地原洞穴人（久米島町、一万五千年前）などです。しかし、これらの人骨の年代は、一緒に発見された炭などの年代を計測し、人骨と炭は同じ時代に埋まったものと推測していました。骨と炭が同じ時代に埋まったと証明するのが難しいことや、旧石器が一緒に発見されていないことから、年代が間違っているのではないかと考える研究者もいました。

今回年代測定に用いたコラーゲンとは、ヒトの体内で合成されるタンパク質です。そのため、竿根田原の人が生きていたときの年代であることが確実といえます。二万年前の八重山に人々が来ていたならば、宮古島や沖縄島にも同じ時代に人々が来ていても不思議はありません。そういう点で、今回の発見は、八重山のもっとも古い歴史を掘り起こしただけでなく、沖縄全体の更新世人骨の価値を高めたといえます。

それでは、当時の人々の姿や生活は、どのようなものだったのでしょうか。八重瀬

町の港川人は、小柄で上半身がぎゃしゃやでした。すり減った歯からは、堅い粗雑な食べ物食べていたことが推測されます。石器などの道具が見つかっていなくとも、骨から得られる情報で、過去の生活のある程度は知ることができます。白保の人骨は、まだ頭骨の一部や足のゆびの骨など、ごく一部しか見つかっていないため、過去の生活を推測するのは困難ですが、今後の調査でさらに多くの人骨が発見されれば、港川人と姿や顔立ちが似ていたのか、あるいはどんな生活をしていたのか、明らかになると期待されます。

白保竿根田原洞穴は、新石垣空港予定地内に広がる長く複雑な形をした洞穴です。そんな複雑な洞穴内に、どうして人骨が埋まっていたのでしょうか。洞穴内には、入り口から流れ込んだものや、石灰岩の割れ目などから落ち込んだものが混ざりながら堆積することがよくあります。そのため、洞穴内の堆積は簡単には理解できないし、詳しく調べる価値がないと考えられてしまうこともあります。

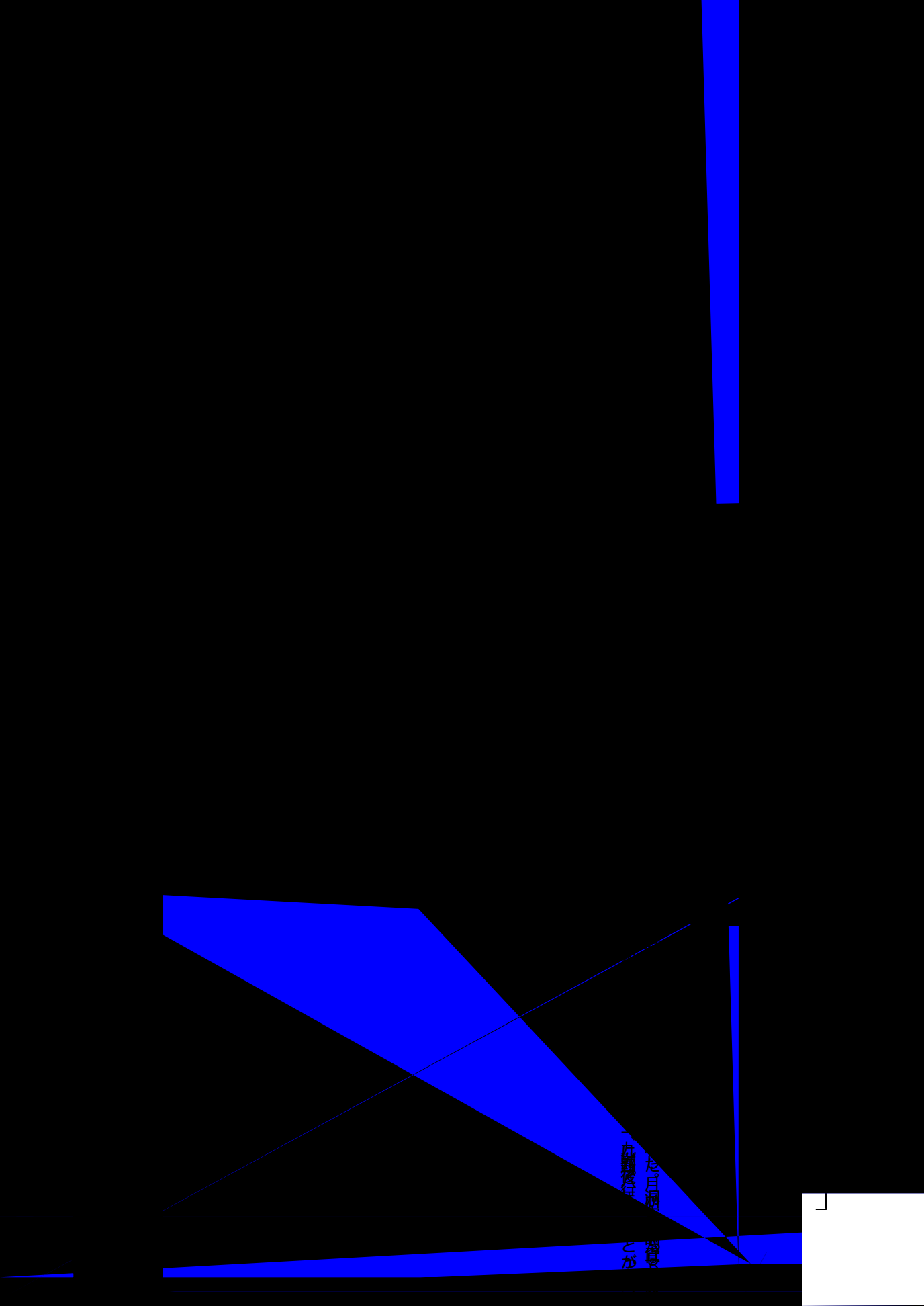
白保竿根田原洞穴からは、これまでの調査で、下田原式土器の破片や無土器時代の人骨など様々な時代のものが発見されています。



洞内調査風景。化石ホールのような更新世の堆積が他にないか調査している。



化石ホールの調査風景。調査のために洞穴の天井を取り除き、現在は地上に堆積が露出している。



んがあるっちってね。野菜なんて

（同）

明るい

据上小屋の電氣をなまじ生活でめしたし、とまは帰立んと怪いさね、座敷なてめな、記類をわながっ